

被災温泉施設の復旧について

質問(黒澤昭治議員)被災した温泉施設の今後の復旧計画について伺います。

答弁(市長)湯津上温泉やすらぎの湯の被害状況でありますが、男女内湯外側の露天風呂が一階ろ過室の建屋ごと沈下したほか、大露天風呂天狗の湯及び施設周辺にも沈下が認められ、沈下に伴う配管の切断、貯湯槽の位置のずれによる配管の破損等が確認されております。また、第一、第二貯湯槽の亀裂によります湯

漏れ等が大きな被害が出ているところでございます。現在の湯量につきましては、震災前の六割程度に減少しており、源泉の温度につきましても、六度程度下がっている状態でありまして、施設の復旧には概算見積もりではありますが、約六千万円の工事費が見込まれるほか、温泉ポンプの修繕も含めると、さらにその経費の負担が生じると考えられております。施設の建設以来二十二年が経過しております



望楼を撤去した消防組合本部庁舎

大田原地区広域消防組合本部庁舎工事

質問(引地達雄議員)消防組合本部庁舎の新築移転等の考えについて伺います。

答弁(消防長)大田原地区広域消防組合本部庁舎は、市民の生命財産を守るとともに、災害発生時の初動対応の迅速化を図るための防災拠点として極めて重要な施設であると考えております。この度の東日本大震災による被災状況につきましては、庁舎の基礎及び壁面、柱に多数の亀裂が発生するとともに、消防車両の車庫の床面にひずみが生じ

さらに車庫前、旧訓練塔付近で液状化現象によるものと思われる水を含んだ砂の噴出もありません。

さらに、消防本部の象徴的存在でもありました望楼に倒壊の危険性が高まったため、急遽、撤去工事を行いました。

このような状況ではあります。現在も本部庁舎として使用しております。

一方、現在国から管轄人口三十万人以上を目標とする消防の広域化に関する基本方針が示さ

れ、県におきましても、栃木県消防広域化協議会を設置し、県内十三消防本部及びその構成市町が県内を一つの消防本部とする広域化に取り組んでおります。この協議の中で、消防署等の施設整備などの投資的経費は、当該消防組合を構成する市町が負担するとの方針案が出されております。

このようなことから、消防組合の被災した本部庁舎をどのように整備していくのかにつきましては、地域の消防防災の拠点を確保する観点から、消防組合構成市である大田原市と那須塩原市の両市と十分に協議を行いながら、一刻も早く移転新築を実施したいと考えております。

ので、老朽化と震災に伴う財政状況を勘案し、施設の復旧につきましてはは慎重に検討してまいりたいと考えております。

一方、黒羽温泉五峰の湯の被害状況につきましては、露天風呂周辺の陥没や受電設備の傾き、土留めコンクリートの剥離、ろ過機配管に破損が認められるほか、建物内の壁や天井に被害が出ておりますが、源泉の湯量、湯温につきましても、震災前後での変化はございません。六月の工事中、七月の工事完了とその後の再開を目指して準備を進めております。



早い復旧、再開が望まれる黒羽温泉五峰の湯